

農業技術

プリズム

イチゴ栽培ではハダニ類の発生が問題となりますが、その原因の一つに挙げられるハダニ類の薬剤感受性（防除薬剤の効きやすさ）の低下が、県内でも懸念されています。近年、アブラムシ類、アザミウマ類、コナガでは、防除薬剤に気門封鎖剤であるサンクリスタル乳剤を混用すると防除効果が高まる（相乗効果）事例が報告されています。そこで、イチゴで利用が想定される気門封鎖剤と殺ダニ剤のいくつかの組み合わせについて、混用した際の相乗効果を調べました。

確認された殺ダニ剤は3剤でした。他にも、フーモンで2剤、粘着くん液剤で1剤の殺ダニ剤との相乗効果が確認されました。表。一方、単剤で

イチゴのハダニ類防除

薬剤への感受性低下 混用で効果高めよう

試験の結果、サンクリスタル乳剤との混用で相乗効果が

効果の高い気門封鎖剤や単剤で効果の高い殺ダニ剤は、混用による相乗効果は見られませんでした。

以上のことから、イチゴで

気門封鎖剤と殺ダニ剤の混用により相乗効果が見られた組み合わせ

気門封鎖剤 (希釈倍率)	殺ダニ剤 (希釈倍率)
サンクリスタル乳剤 (300倍) +	コロマイト水和剤 (2000倍)
サンクリスタル乳剤 (300倍) +	スターマイトフロアブル (2000倍)
サンクリスタル乳剤 (300倍) +	ダニサラバフロアブル (1000倍)
フーモン (1000倍) +	スターマイトフロアブル (2000倍)
フーモン (1000倍) +	ダニサラバフロアブル (1000倍)
粘着くん液剤 (100倍) +	ダニサラバフロアブル (1000倍)

※長崎県農林技術開発センターの資料を基に作成

利用が想定される薬剤についても、組み合わせによって混用で相乗効果が見られることが分かりました。なお、混用する際は発生しているハダニ類の薬剤感受性や薬害に注意し、使用してください。

(長崎県農林技術開発センター病害虫研究室 永石久美子)